

## 児童デイサービスすきっぷ神楽

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	今後の対応
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・定員に対し十分なスペースが確保されている。 ・整理整頓にも心かけ、安心して過ごせるスペースを維持できるよう努めている。	整理整頓を心かけ、今後も安心して過ごせるスペースを維持できるよう努めていく。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			・加算が算定できる配置基準を満たし、きめ細やかな支援が提供できるよう努めている。	職員の専門性やスキルなども考慮し、子どもたちにとってよりよい療育ができると考えた異動、各事業所のスキルのバランスを考えた適切な配置は今後も行っていく。職員個人のスキルを高め、誰が異動になってもより良い支援が提供できるよう努めていく。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			・トイレに手すりを設置している。 ・活動と遊びでの気持ちの切り替えを促すための構造化に配慮している。	子どもたちが安全で安心して利用できる事業所づくりを創造していく。現在、バリアフリーを必要とする子どもはいないが、安易なバリアフリー化は、子どものスキルを低下させてしまう恐れがあるので必要に応じて協議していく。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返りに)、広く職員が参画しているか	○			・施設内研修やミーティングで職員間での話し合いの場を設けている。 ・朝会等で意見を言える場がある。 ・全スタッフが必ず発言するようルールを設け進行している。	全職員がより多くの意見を提案できるよう意識を高め、精度を上げていく。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・保護者向け評価表の結果を踏まえ、全職員で話し合い、改善に努めている。	今後も保護者さまの意向を把握し、改善に繋げていく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			・評価表の結果を踏まえ、全職員で話し合い、改善に努めている。 ・玄関の掲示と、保護者様へ周知のうえホームページでの公表を行っている。	今後も公表を行うとともに、改善に繋げていく。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	・重要事項説明書にも記載しているが、第三者による外部評価は行っていない。	必要性を感じた際には検討していく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・毎月法人研修や事業所内研修を実施し人材育成に取り組んでいる。 ・報告書を資料として残し、振り返りができるよう考慮している。	今後も施設内研修を実施し人材育成に取り組んでいく。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・アセスメントシートを活用し、モニタリング時に話し合いを行っている。 ・個別支援会議にて、子どもの課題を共有し、どのような支援が必要か模索している。 ・子どもの苦手な部分に着目しがちになってしまうことが課題。	今後も日々子どもの様子を検証し、保護者さまのニーズや子どもの課題を考慮して作成していく。 子どもの小さな出来たを見逃さず、発信できるスタッフの育成を図っていく。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・法人共通の物を使用している。	今後も法人で統一した方法で整備していく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・全スタッフで話し合う機会を設けている。	今後も全職員が立案に携わっていくことで、多角的にプログラムを立案できるよう努めていく。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・体育館使用日等一部固定のものもあるが、極力曜日固定を行わないことで、利用児が様々な活動に参加できるよう配慮している。 ・野球支援を療育の柱とし、5領域に沿った総合的な支援ができるよう考えている。	今後も固定化しないよう活動内容を模索していく。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・平日と土曜日では異なるプログラムで活動を提供している。また、長期休暇には自由遊びも含め一日を通したスケジュールを設定しており、登校時にはできない時間をかけた活動を取り入れるなどの工夫をしている。	今後も状況に適したプログラムを設定していく。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・子どもに合わせて、集団活動の中での個別対応を適宜組み合わせ計画を作成している。 ・活動によりグループ分けや席順の配慮を行い、集団の中で個別配慮しやすい工夫を行っている。 ・自由遊びのなかで個別の課題に取り組むなど工夫している。	個別活動や学習支援は行う予定はないが、今後も集団の中で個別配慮しやすい工夫を行い、お子さま個人の課題に沿った計画をたて、対応していく。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・朝会にて打ち合わせを行い、当日の支援内容や役割分担、動きや配慮点などについて確認を行っている。	毎日の朝会は今後も重要視して行っていく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			・当日は送迎や業務終了時刻が異なる為、綿密な打ち合わせは厳しい場合が多いが、その日のうちに施設長に報告を行い、翌日の朝会にて取り上げ共有している。	報連相の精度をあげ、適切な情報共有に努めていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・ケース記録を作成し、記録を残している。また、いつでも目を通せるよう保管し支援の検証・改善につなげているが、時に内容が薄いことが課題。	職員の個人スキルを向上させ精度を上げていく。
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・子どもひとりひとりに対し、半年以内でモニタリング会議を開催し、職員全員で意見を出し合い、進捗や計画見直しの必要性を判断している。	今後も継続していく。
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			・適宜組み合わせを行い、定期的にガイドラインの確認を行っている。	今後も継続していく。	
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・担当者会議に参画する場合は、支援職員と情報を整理したうえで、児童発達支援管理責任者もしくは施設長が参画している。	今後も情報共有を行い、子どもの支援につなげられるよう努めていく。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			・保護者さまの同意をいただき、必要に応じて電話や面談等を通し共通理解ができるよう努めている。 ・学校と面談をし連携を強めたいが、実現が難しい場合が多い。 ・一部、保護者さま以外との情報共有が断られる学校もある。	保護者さまと学校との面談に出席させていただく機会を増やせるようアプローチしていく。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			・看護師を配置しておらず、医療的ケアが必要な子どもを受け入れていないため該当しない。	受け入れる際には連携を図っていく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・実例がないが、保護者さまから依頼があれば、必要に応じて対応する。	保護者さまからの依頼があった場合は対応していく。

関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			-該当するお子さまがないため、実例がない。	該当者がでた際には対応する。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			-現在研修参加の機会はないが、相談事業所等や医療機関より助言をいただく機会がある。また、必要に応じて併用事業所や学校と連携を取っている。	今後も連携を取り助言や研修を受けていく。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○				-“旭川小学生Tボール選手権大会”は悪天候のため中止となったが、札幌ドームの“北の甲子園大会”では多くの子どもたちと交流させていただいた。また、スキーハンジテスト、外出支援等においても、一般の方々と関わる機会を設けている。	引き続き、このような活動をより多く発信していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○		-要請がない。	要請があった場合は参加を検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				-保護者様へ適切な情報を伝えられるよう、子どもとの関わりを大切にしている。 -送迎時の引継ぎや面談、電話対応、連絡ノートなどで共通理解を深められるよう努めている。	今後も情報交換を行い共通理解に努めていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○				-不安な対応やアドバイスはトラブルにつながる為、施設長や児発管が必要に応じ個別で行なっている。	保護者さまに寄り添い、知識を深めてサポートできるよう、研修や指導を重ねていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○				-契約時や、必要に応じ更新時も行っている。	今後も必要に応じて、面談時や通信・書面などで分かりやすく発信していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○				-個別支援計画見直し時に面談のご案内をお渡ししている。また、保護者さまからご相談を受けた際は、迅速で丁寧な対応を心掛けている。	今後も、必要に応じて助言を行い、保護者さまに寄り添い、気持ちの受け入れ先になれる様努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○				-Tボールの応援や親子参加型のイベントを開催し、コミュニケーションの場を設けている。	今後も情勢を踏まえた上でイベントを開催し、保護者さま同士の交流が生まれるよう計画したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				-ご相談については迅速にご連絡するよう努めている。また、苦情処理委員会を設置しており、『苦情解決処理体制及び手順』に基づいて迅速に対応している。	今後も迅速に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○				-毎月通信を発行している。 -活動予定表には活動のねらいも記載している。	今後も保護者さまに分かりやすく、喜んでいただけるような通信を発行していく。
	35	個人情報に十分注意しているか	○				-「個人情報利用の目的」に従い、取り扱いには細心の注意をしている。不要なデータや使用済みの書類などは施設内でシュレッターにかけ等の処理を行うとともに、職員規定により事業所外にデータを持ち出すことも禁じている。	今後も研修などを重ね、より一層セキュリティ強化に努めていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				-子ども達へは視覚提示を取り入れるなど、日々模索し意思の疎通に努めている。 -保護者さまへは、必要に応じて、連絡ノートへの記載やご自宅訪問・電話連絡やSNSを利用して情報を伝達している。	引き続き、子どもたちにより分かりやすく伝えられるようできるよう模索していく。 保護者さまに対しては、面談や他のツールを活用し、関係構築に努めていく。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○				-不特定の住民を招待するという点に関しては利用児へのプライバシーの配慮という点で難しく、セキュリティ上の問題から好ましくないと考えている。 -作品展を開催し地域住民の方へ公開する場を設けたり、町内のゴミ拾いなどの地域貢献活動を行っている。	事業所の解放や不特定の住民を招待するという点に関しては今後も行う予定はないが、作品展や地域貢献活動は継続していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○				-職員へは研修を行っており、保護者様へは毎年4月に緊急時対応マニュアルや必要に応じて文書を配布している。	今後も変更等が出た場合などは迅速に情報公開していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的避難訓練、救出その他必要な訓練を行っているか	○				-避難訓練を年に2回行っている。(火災3月・地震10月)また、年に1度不審者への対応訓練も実施している。	今後も継続して取り組んでいく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○				-法人として年に2回“虐待防止・身体拘束廃止委員会”を開催しており、内容を事業所内にも周知している。また、同月に虐待防止研修を行なっている。	研修の精度をあげ、不適切な支援が起こらないよう継続し取り組んでいく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○				-契約時や必要に応じて面談時等に説明している。また、個別支援計画特記事項にも記載している。虐待防止・身体拘束廃止委員会”を開催しており、内容を事業所内にも周知している。	研修を重ね、“拘束しない支援”に継続し取り組んでいく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○				-フェイスシートにてアレルギーの有無を確認している。 -アレルギー反応が出やすい食材を扱う場合には当日利用する全てのご家庭に確認をとるなどして対応している。	継続し取り組んでいく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○				-事故・ヒヤリハット報告書を作成し周知している。ヒヤリが共有されず軽微な事故に繋がるケースが少なくない。	ヒヤリハット報告書の書式を見直し、職員が進んで出せる環境を整えていく。